

産業保健と地域保健が連携した健康づくりの取り組み

ガイドラインステップ	キーワード (6つ以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域・職域連携 ・ 産業保健 ・ 地域保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康増進活動 ・ 運動習慣 ・ ウォーキング
1～4, 9, 15, 16			
改善・取組みの 背景と課題	<p>2005年に厚生労働省は地域・職域連携推進ガイドラインを策定しているが、A事業場と地域保健との連携は一時的なものであり、感染症対応や社員の退職後の支援依頼などにとどまっていた。また、県の労務安全衛生協会支部の健康づくり分科会活動に参加し、近隣産業看護職と定期的に情報の交換・発信などの活動をしていたが、次第に参加者が減少し、活動を中断していた。ある年、A事業場給食施設とA事業場健康支援センターで協働開催していた健康フェアにB区行政保健師が見学に来所。その際、行政保健師と産業保健師で意見交換し、B区地域職域連携情報交換会(以下情報交換会)を発足することとなった。情報交換会では、B区の保健スタッフ(行政保健師・管理栄養士・歯科衛生士)と産業看護職が協働で、社員に対して、一生涯を通じた健康づくり推進を検討する場となった。発足時にはA事業場の産業保健師とB区の保健スタッフのみの参加であったが、健康づくり分科会に参加していた近隣産業看護職にも参加を呼びかけ、6社(従業員数約200～1200名)の産業看護職とB区の保健スタッフでの開催へと発展していった。</p>		
改善・取組みの 着眼点	<p>発足当初は、各社・B区保健センターの見学会や勉強会を通して地域職域それぞれの関係法規の違いやそれに基づく事業内容について知ることで、相互の理解を深める事から始めた。A事業場(従業員数約2500名)では、毎年、生活習慣病予防対策強化を安全衛生活動方針の一つに掲げ、個別・集団指導を実施していたが、定期的な運動を実施している者の割合が低かった。また、毎年肥満などの有所見率が高く、生活習慣病予防のために運動習慣を身につけることが必要であると考え、新たな取り組みを検討していた。一方、B区ではジョギングに関するイベントに力を入れて展開していた。しかし、各種イベントを開催しても参加者の多くが高齢者であり、働く世代にも関心を向けてもらうためにはどのようなイベント開催が有効であるか模索していた。上記のような状況を情報交換会にて共有することで、地域・職域が互いに協働してイベントを開催することへ繋がっていった。そして、ジョギングイベントを含む運動中心の健康づくりプログラムの検討を開始した。</p>		
改善・取組みの 概要	<p>A事業場の健康づくりプログラムの実施にあたっては、B区との協働開催を提案し総務、産業医から承諾を得ることができた。また、安全衛生委員会にて説明し、職場の理解が得られた。健康づくりプログラムでは、まず手軽にできる運動方法を地域スポーツインストラクターから指導してもらい、事業場内で運動する機会を多く設けた。その後、ジョギングに関する講演会を開催し、講師の紹介を行政保健師より受けた。また、昼休みの数日間のジョギングイベント開催時には行政保健師と産業保健師が指導をしながら社員とジョギング伴走をした。このようなイベント開催にあたっては、マンパワー不足やスキル、予算が問題となるが、地域保健の協力を得ながら、その年はイベントを4回開催し、それらを3年間継続して開催することができた。さらに、社員が参加可能な地域の保健事業の情報を情報交換会にて収集し、事業場内に展開した。そのことで、事業場内にとどまらず地域の保健事業へ同僚や家族と参加した社員もいた。</p>		

<p>写真・図表・イラスト</p>	<p style="text-align: center;">【地域保健との協働事業】</p> <p style="text-align: center;">地域職域連携情報交換会を発足させ、社員に対して一生涯を通じた健康づくり推進対策を展開。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; color: blue;">地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ イベントを開催しても参加者の多くが高齢者 ■ 働く世代にも関心を向けてもらう方法を検討 </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; color: blue;">職域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 運動習慣のある者の割合が低い ■ 生活習慣病の有所見率が高い ■ 個別・集団教育を実施していたが新たな取り組みを検討 </div> </div> <p style="text-align: center;">Win-Winの関係</p> <div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 60%;"> <p>地域保健と職域保健協働の健康づくりプログラムを開始</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>【地域職域連携情報交換会での活動内容】 活動頻度：2～3か月に1回、1～2時間/回</p> <p>① 地域と職域の活動報告 ② 情報交換（ジョギングイベント・地域スタンプラリーなど） ③ 協働イベントに向けた打ち合わせ</p> <p>④ 給食施設栄養管理報告書の提出と身体状況改善のための検討会（給食施設栄養管理士・地域栄養管理士含む）</p> <p>⑤ 研修報告 ⑥ 健康フェアの共催 ⑦ 行政主催の栄養管理士研究会への講演出席 等</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>講演会の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>昼休みのジョギングイベントの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>健康フェアの様子</p> </div> </div>			
<p>効果</p>	<p>社員の一生涯を通じた健康づくりを推進したいという地域・職域双方の思いが一致したことで、協働して健康づくりに取り組むことができた。この連携により、多職種からの協力が得られ多彩で効果的な健康づくりイベントを継続して展開することができた。また、地域の保健事業情報の展開は、社員が自分にあったサービスを選択でき、運動習慣の定着化や健康づくりのためのアプローチ強化となったと考える。A 事業場では、イベント前後で有効回答のあった 722 名の従業員のうち、週 2 回以上の運動習慣のある者の割合はイベント前 17.9% に対し、イベント 3 年目には 23.4% と有意に増加した (P < 0.01)。さらに、A 事業場での B 区と連携した健康づくりイベントの実施を情報交換会にて共有したことで、他社の一人職場の産業看護職も地域保健との連携により健康づくりイベントが開催できることが分かり、他社での地域保健と連携したイベント開催へと繋がった。地域の持つ専門性やマンパワーなどの資源を受け、有効なアプローチが可能であることを示すことができたと考える。</p>			
<p>この GPS の経験から学ぶことができるポイント</p>	<p>地域・職域の両者が協働することで、互いの課題解決に繋げることができ WIN-WIN の関係性を構築することができた。この経験から地域保健と顔の見える関係性を築く事の重要性を学ぶことができ、連携の幅を広げることができた。コロナ禍においては、頻回な情報交換会の開催が難しくなり、リモートにて年 1～2 回程度の開催となっている。事業場内での各種イベント開催が困難となり、情報交換会での議題は新型コロナ感染対策やコロナ禍における産業保健活動に関する情報共有が主となっている。ニューノーマルな時代に社員の働き方が大きく変わり、今後は在宅勤務者が居住地区の地域保健事業を活用する機会も増加することが予測され、その変化に柔軟に対応できる体制づくりが望まれる。このことから、より一層地域保健と連携したアプローチが重要となると考える。</p>			
<p>参考資料</p>	<p>1) 厚生労働省：地域・職域連携推進事業ガイドライン https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_06868.html</p>			
<p>COI 欄</p>	<p style="text-align: center;">特に無し</p>			
<p>投稿者（職種）</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%; padding: 5px;"> <p>紅谷 悠貴（保健師）, 長谷川 由希子（保健師）</p> </td> <td style="width: 15%; padding: 5px;"> <p>投稿日</p> </td> <td style="width: 25%; padding: 5px;"> <p>2022 年 1 月 14 日</p> </td> </tr> </table>	<p>紅谷 悠貴（保健師）, 長谷川 由希子（保健師）</p>	<p>投稿日</p>	<p>2022 年 1 月 14 日</p>
<p>紅谷 悠貴（保健師）, 長谷川 由希子（保健師）</p>	<p>投稿日</p>	<p>2022 年 1 月 14 日</p>		
<p>所属機関</p>	<p>事業所/医療保険者/健診機関・企業外労働衛生機関/大学等教育機関/その他（ ）</p>			

